

水稻新系統「滋賀 69 号」の育成			
【要約】 中生の早熟期の極良食味で良質の水稻新系統「滋賀 69 号」を育成した。本系統は、短稈で倒伏に強く、いもち病にも強く、多収である。また、「ゆめおうみ」より外観品質、良食味ともに優り、中生の早熟期の粳品種として有望である。			
農業技術振興センター・栽培研究部・作物担当		【実施期間】 平成 11 年度～平成 20 年度	
【部会】 農産	【分野】 高品質化技術	【予算区分】 県単	【成果分類】 研究

【背景・ねらい】

「コシヒカリ」などの早生熟期と「日本晴」・「秋の詩」などの中生の晩熟期では、収穫時期が 2 週間程度異なる。作期分散、機械・施設の効率的利用の観点から、これらの中間熟期となる中生の早熟期の品種は重要である。しかし、2001 年に奨励品種に採用した中生の早熟期の「ゆめおうみ」は、栽培特性に優れ多収が望める品種だが、多肥栽培で食味が低下しやすく良食味品種としての評価が得られなかったため、栽培面積が伸び悩んでいる。

そこで中生の早熟期に属し、「ゆめおうみ」並みの栽培特性を持ち、極良食味の「滋賀 69 号」を育成した。

【成果の内容・特徴】

①系統の来歴

「滋賀 69 号」は、1999 年に「ヒノヒカリ/滋賀 62 号(秋の詩)」のF₁を母、「ゆめおうみ」を父として人工交配を行い、その後代から育成した系統である。2004 年に F₆世代で収量試験番号「大育 2167」を付し、生産力検定および特性検定に供試し、2005 年からは奨励品種決定予備調査に、2007 年からは奨励品種決定本調査において諸特性の調査を行ってきた。その結果、有望と認め 2008 年に「滋賀 69 号」の地方系統番号を付した。なお 2008 年度の世代は、F₁₀に当たる。

②特性の概要

出穂期は「ゆめおうみ」より 1 日遅く、「コシヒカリ」より 9 日遅く、「日本晴」より 4 日早い。成熟期は「ゆめおうみ」より 2 日遅く、「コシヒカリ」より 10 日遅く、「日本晴」より 4 日早い。

稈長は「ゆめおうみ」と同等の 70cm であり、短稈で倒伏しにくい。穂数は「ゆめおうみ」と同等からやや多い 405 本/m²で、中間型の草型を示す。

収量は「ゆめおうみ」よりやや多収、玄米千粒重は 22.1g で粒が「ゆめおうみ」よりやや小さい。外観品質は「ゆめおうみ」より優れる。

葉いもち病抵抗性および穂いもち抵抗性はともに“やや強”であり、「ゆめおうみ」よりやや弱い、「コシヒカリ」および「日本晴」より強い。穂発芽性は“難”で「ゆめおうみ」と同等である。

食味は粘りが強く、「ゆめおうみ」および「コシヒカリ」より優り極良食味である。

【成果の活用面・留意点】

- ①奨励品種決定本調査ならびに現地調査に供試して、より詳細な特性の把握に努める。
- ②高温登熟性検定ハウスにて高温登熟性の確認を行う。

[具体的データ]

表1 特性概要

品種・系統名	滋賀69号	比)ゆめおうみ	参)コシヒカリ	参)日本晴
熟期	中生の早	中生の早	早生	中生の晩
草型	中間型	中間型	中間型	中間型
出穂期	8月5日	8月4日	7月27日	8月9日
成熟期	9月8日	9月6日	8月29日	9月12日
稈長(cm)	70	70	93	83
穂長(cm)	19.7	18.7	18.7	19.3
穂数(本/m ²)	405	393	415	412
精玄米重(kg/a)	59.1	57.1	56.9	59.4
同上記率(%)	104	100	100	104
玄米千粒重(g)	22.1	22.8	21.0	22.6
玄米品質(1~9) ¹⁾	4.6	6.3	5.0	4.9
倒伏程度(0~5)	0.4	0.0	2.8	1.5
葉いもち	やや強	強	弱	やや弱
穂いもち	やや強	強	弱	中
穂発芽性	難	難	中難	中~中難
食 ²⁾ 総合評価	0.26	0.12	0.06	-0.08
味	0.07	0.04	0.09	-0.03
味 粘り	0.50	0.31	0.21	0.03

5月10日頃移植、農業技術振興センター、2005~2008年の結果。

1)数値が小さいほうが良い。

2)食味試験は2005~2007年の平均。

「日本晴」以外は「日本晴」を基準とした結果。

「日本晴」は「コシヒカリ」を基準とした結果。

[その他]

・研究課題名

大課題名：消費者の多様なニーズにこたえる高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：水稻・麦類・大豆品種改良および栽培試験

・研究担当者名：

中川淳也 (H11~H20)、吉田貴宏 (H11~H20)

・その他特記事項：

